

No.22 ナディム・カラム 「古代の行列」

Nadim Karam

北川フラムさんのコラム / 1998 (平成 10) 年 10 月 15 日付 立川市市報記事より

ナディム・カラムは建築家。来日して大学院を出て、故郷のレバノンに帰って大学院で教えたが、今はフリーとなって世界各地で美術プロジェクトに関わっている。

チェコのプラハのカレル橋やベイルートの博物館では、ファーレ立川と同じ「古代の行列」を用いて、大きな彫刻と光の演出によるインスタレーションを行った。

「古代の行列」は、複雑な歴史を持った中近東に生き、今は国際的に動いている作家の図像による歴史的な記号だ。キリン、ワニ、ゾウ等の動物とともに手をつないで歩く少年、少女もいる。

何千年もの昔、彼の地はイルカなども含めて自然と関わり、折り合いをつけていた記憶を持っている。そういう祈りにも似た希望をこの像に託しているかに見える。

作家のメッセージ / 日本住宅公団 (現 : UR 都市機構) 「ミニ通信」より

ここ数年、美術は世界市場の落ち込みに伴う不況を経験してきました。美術の信用と美術作品が売られていた法外な価格は突然疑問に符されることになりました。国際的な美術市場に多大な投資を行ってきた日本は、この現象により直接的な打撃を受けました。いくつかの画廊は倒産し、閉鎖されました。

こうした混乱の中にありながら、美術の改革と地球的規模でのアート・イベントの実施が可能となりました。美術市場の大変動とは無関係に、アート・フロント・ギャラリーは今、最も大きなアート・プロジェクトの一つを実現させつつあります。

立川の都市複合体に、北川フラム代表は文化を与えることを提案しているのです。その試みは新しく大胆なものです。立川プロジェクトは国籍、所属、人種、肌の色、宗教に関わりなく、アーティストを集めています。美術館を出て、彼らの作品は街路やビルの壁面、換気塔などに投げ込まれるのです。

私はこのプロジェクトについての北川フラムとスタッフとのミーティングで、作業の規模、模型、建築図面を見て、びっくりしました。この膨大なエネルギーを要する作業が、このプロジェクトに参加した90人のアーティスト一人一人について繰り返されたことと思います。

このパイオニア・プロジェクトが美術界において、さらなる試みのための一つの範例となることを願っております。ファーレ立川を歩き回り、世界的に有名な多数のアーティストの美術作品やインスタレーションを発見することは、好奇心を駆られる、価値ある経験に違いありません。

私としては、一日でいい、ファーレ立川市民になりたいものです。